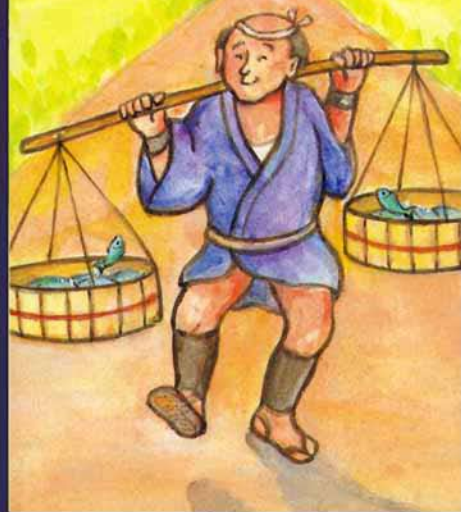


て



て

天秤てんびんで

運はこぶ街道かいどう

鮎あゆの道みち

相模川さがみがわの鮎あゆ魚うりま

座間大通り、下宿しもじゆくにある薬局やっまくの北側から西へ向い、中河原なかわらを通り相模川へ至るまでの、約二キロメートルの道が鮎あゆの道と呼ばれています。この道は江戸時代のころから、相模川でとれた鮎を江戸へ運ぶ鮎かつぎの人たちが通る道だったため、この名前が付けられたといわれています。

その日にとれた鮎を、専用の竹カゴ（鮎カゴ）に入れて天秤てんびんでかつぎ、夕方座間を出かけたそうです。江戸までの十三里（約五十二キロメートル）の道を一晚中歩き続け、翌朝あしたあさ江戸へ着いたといわれています。

て